

Japan International Education Society



日本国際教育学会

〈学会創立 30 周年記念〉

第 32 回研究大会

開催要項

☆日程: 2021 年 10 月 9 日(土)・10 日(日)

☆方法: ハイブリッド開催

☆主催: 日本国際教育学会

☆後援:

北海道, 北海道教育委員会, 札幌市教育委員会, 北海道立北方民族博物館,
独立行政法人国際協力機構, 公益社団法人北海道国際交流・協力総合センター,
公益社団法人北海道アイヌ協会, アラスカ姉妹都市(千歳市・帯広市・根室市・紋別市・
佐呂間町・天塩町), 北海道国際理解教育研究協議会, 北海道新聞社, 読売新聞北海道支社,
朝日新聞北海道支社, 毎日新聞北海道支社, NHK 札幌拠点放送局

日本国際教育学会第 32 回研究大会に向けた御挨拶

第 32 回研究大会現地実行委員長 玉井康之

2020 年度研究大会は、北海道で開催予定でしたが、残念ながら中止せざるをえませんでした。2021 年度の大会も、コロナ禍の収束を期待しましたが、状況は変わっていません。それで皆様には大変ご迷惑をおかけしますが、理事会と協議し、オンラインを基本としたハイブリッド開催にさせて頂きたいと思っております。基本的にはオンライン開催となりますが、公開シンポジウムだけは、対面式とオンラインのハイブリッド開催となります。公開シンポジウム会場は、札幌駅前の「TKP 札幌駅前ビジネスセンター赤れんが前」となります。

大会回数ですが、昨年度の第 31 回大会が中止であるため、今回は回数が一つ繰り上がり第 32 回大会となります。皆様には 1 年間お待たせしましたが、2 年間の研究成果を自由研究発表にて積極的にご報告頂ければ幸いです。オンラインですので、学会大会参加の日程は組みやすくなったと思っております。

北海道は大変遠方ですが、「国立アイヌ民族博物館ウポポイ」もオープンしており、10 月 9 日からの 3 連休に、学会参加と併せてお越し頂ければ幸いです。

全体としての大きな変更点は以下の点になります。

- ①自由研究発表 I・II と課題研究 I・II は、オンラインとなります。
- ②公開シンポジウム(無料)のみ、「TKP 札幌駅前ビジネスセンター赤れんが前」を会場とし、オンラインと対面式のハイブリッド開催となります。
- ③学会参加申込み・自由研究発表申込みは、学会ホームページから入力して頂きます。申込み者には、Zoom のミーティング ID・パスコードを送信します。
- ④大会参加費 2000 円は、ゆうちょ銀行にお振り込み願います。
- ⑤自由研究発表申込みは、8 月 16 日までに御願います。少し期間を長く取っておりますので、ぜひ積極的にお申し込み願います。
- ⑥10 月 9 日(土)は、Wi-Fi 受信会場を TKP 会場に設けています。
- ⑦10 月 10 日(日)は、午前 11 時で終了しますので、ホテルのチェックアウト時まで参加できます。

第 32 回研究大会開催要項

1. 開催日時

2021 年 10 月 9 日（土）9 時 30 分 ～ 10 月 10 日（日）11 時

2. 開催方法

①公開シンポジウム及び総会は、対面とオンラインを組み合わせたハイブリッド方式で、課題研究と自由研究発表はオンライン（Zoom によるライブ配信）のみで開催致します。

現在、新型コロナウイルス感染拡大の影響により大学や公共施設の使用に大きな制約が生じていますので、公開シンポジウムと総会のみ、札幌駅近くの TKP 施設を会場とし、現地で開催するとともに Zoom によるライブ配信を行います。

※公開シンポジウム及び総会会場「TKP 札幌ビジネスセンター赤れんが前」（「はまなす」）

北海道札幌市中央区北 4 条西 6 丁目 1 毎日札幌会館 5 階

電話 011-252-3165、080-4817-0277

②10 月 9 日（土）は、Wi-Fi を繋ぐための会場として、TKP 内に「オンライン室」として小ルーム「ライラック」をご用意しています。9 日はプログラム終了までお使い頂けますが、収容人数には制限があります。なお同会場は事務局控室としても使用いたします。

③新型コロナウイルス感染拡大状況によってはプログラムや開催方法に変更が生じる可能性があります。必ず事前に学会ホームページで最新情報をご確認ください。

3. 主催および共催

学会大会主催：日本国際教育学会

なお公開シンポジウムのみ、日本国際教育学会と「北海道教育大学へき地・小規模校教育研究センター」および「北海道大学教育学研究院」との共催となります。

4. 基本的なプログラムの流れ

1 日目：10 月 9 日（土）

9 時 30 分～12 時 00 分 自由研究発表 I （オンライン配信のみ）

13 時 00 分～15 時 00 分 課題研究 I （オンライン配信のみ）

15 時 15 分～17 時 15 分 公開シンポジウム（大会会場とオンライン配信）

17 時 30 分～18 時 30 分 総会 （大会会場とオンライン配信）

※懇親会はコロナ禍のため中止とします。

2 日目：10 月 10 日（日）

9 時 00 分～11 時 00 分 課題研究 II ・自由研究発表 II （オンライン配信のみ）

※1 課題研究 II と自由研究発表 II は、同じ時間帯に並行実施となります。

※2 10 月 10 日は、Wi-Fi 等を各自でホテル・大学・自宅等で繋いで頂ければ幸いです。

※3 オンライン配信は、両日とも開始時刻の 30 分前から Zoom に入室できます。

5. 公開シンポジウムと課題研究Ⅰ・Ⅱのテーマ(詳細趣旨:後述15番・16番・17番)

①課題研究Ⅰ 【テーマ「民族共生とアイデンティティ形成」】

②公開シンポジウム

【テーマ「共生社会における先住民族政策とはーアラスカと北海道の結節点」】

③課題研究Ⅱ 【テーマ「SDGsの展開と開発途上国の教育実践」】

6. 大会プログラムと開催室

1日目:10月9日(土)

時間	プログラム	実施方法
9:00~9:30	受付:オンライン入室受付	
9:30~12:00	自由研究発表Ⅰ	オンライン配信のみ(各自で接続を御願ひしています。)
12:00~13:00	昼食休憩	
13:00~15:00	課題研究Ⅰ 【テーマ「民族共生とアイデンティティ形成」】	オンライン配信のみ(各自で接続を御願ひしています。)
15:15~17:15	公開シンポジウム 【テーマ「共生社会における先住民族政策とはーアラスカと北海道の結節点」】	ハイブリッド オンライン配信及び現地会場 (TKP札幌ビジネスセンター 赤れんが前:「はまなす」)
17:30~18:30	総会	ハイブリッド オンライン配信及び現地会場 (TKP札幌ビジネスセンター 赤れんが前:「はまなす」)
	懇親会中止	

2日目:10月10日(日)

時間	プログラム	実施方法
8:30~9:00	受付:オンライン入室受付	
9:00~11:00	・課題研究Ⅱ 【テーマ「SDGsの展開と開発途上国の教育実践」】 ・自由研究発表Ⅱ	オンライン配信のみ(各自で接続を御願ひしています。) (課題研究Ⅱと自由研究発表Ⅱは、同時間帯実施となります。)

①コロナ禍のため、当初のご案内とは会場・運営方法・時間が異なります。

②自由研究発表の申込状況等によりプログラム内容は若干変更になることがあります。

③自由研究発表Ⅰでは、Wi-Fi部屋「ライラック」はご用意しますが、混線するので、極力避けて頂ければ幸いです。なお「ライラック」利用時もヘッドセットが必要になります。

④理事会は10月8日(金)にオンラインにより開催する予定です。

7. 研究大会参加申込みと期日

大会参加申込みは、日本国際教育学会の専用ホームページから入力して頂きます。また学会会員の方で総会を欠席される方は、同じく学会専用ホームページから、委任状を提出して頂ければ幸いです。

<http://www.jies.gr.jp/>から、10月1日(金)までに入力するとともに、指定口座に参加費をお振り込み願います。（入金確認に1週間かかりますのでお早めをお願いします。）

※会員の皆様には、本大会に興味・関心がある方に、大会要項のPDFを転送して頂くなど、是非広くお声かけをして頂きますよう御願い致します。

下記学会ホームページQRコードからアクセスすることも可能です。



学会ホームページ



参加・発表申込フォーム

8. 参加費等

①学会大会:2000円（学会員および当日のみ参加者を含めて一律となります。）

②公開シンポジウム:無料です。

（「共生社会における先住民族政策とはーアラスカと北海道の結節点ー」）

③参加者は10/1（金）までに事前に郵便口座への振込をお願い致します。参加申込者には、申込時のアドレスに、ZoomのログインID・パスコードをお知らせ致します。

【振込先】 ゆうちょ銀行

振替口座：19230-1281461

加入者名：学会釧路大会実行委員会（ガツカイクシロタイカイジッコウイインカイ）

振込金額：2,000円

他金融機関からの振込用口座番号：

店名：九二八（キュウニハチ）店番：928

預金種目：普通預金 口座番号：0128146

①公費支出で、振り込み時記録用紙に加えて、別途領収書が必要な場合は、実行委員会に御連絡願います。

②札幌への移動は、全国各地から新千歳空港への直行便が出ていますが、コロナ禍で減便となっていますので、ご注意ください。

③日本最北北海道の大会であるため、大変遠方ではありますが、公開シンポジウムを含めてご参加頂ければ幸いです。

9. 自由研究発表の申込み期間と申込み方法

①発表者の申込み条件

自由研究発表に発表申込みできる方は、日本国際教育学会の会員で2021年度までの会費を完納していることが条件となります。現在非会員の方は、発表申込期限までに学会入会申込みの手続きを御願い致します。入会方法については、学会ウェブサイトの入会案内をご覧ください。のうえ、学会事務局に入会申請書をお送りください。

②自由研究発表の申込み期間

自由研究発表の申込み期間は、8月16日（月）までとなります。今からご発表のご準備をお願いできれば幸いです。ぜひ積極的に自由研究発表の申込みをして頂き、地方の大会を盛り上げて頂ければ幸いです。

③自由研究発表者のプログラムは実行委員会で配置します。10月9日(土)と10月10日(日)のどちらかしか都合が合わない場合には、ご希望にそえるよう調整しますので、実行委員会にご相談願います。

④自由研究発表申込み方法

発表申込み・参加申込み等は、学会専用ホームページから入力して頂きます。

日本国際教育学会ホームページ <http://www.jies.gr.jp/>

下記学会ホームページQRコードからアクセスすることも可能です。



参加・発表申込フォーム

⑤自由研究発表はZoomによるライブ配信となります。
発表申込後10/1（金）までに大会参加費を指定郵便口座へ振込をお願い致します。

⑥自由研究発表内容に関して、学会事務局よりお問い合わせをさせていただく場合があります。あらかじめ御承知おきください。

10. 自由研究発表の発表時間と要旨・発表資料のお願い

①発表時間20分、質疑応答10分で、合計30分となります。

②自由研究発表申込者は、9月9日（木）までに、要旨をお送り頂きます。発表申込者には、要旨集作成要領を別途お送りします。

③プログラム公表後（8月末頃）は、発表時間変更は原則としてできませんのでご留意願います。

④当日発表資料は、発表者が各自でGoogle-Driveに10月3日(日)までにアップして頂き、大会参加者がダウンロードできるようにします。

Google-Driveのアドレスについては、発表者および参加申込みに、ZOOMアドレスと一緒にお送りします。

11. 公開シンポジウム受付場所

公開シンポジウム時のみ:会場「TKP 札幌ビジネスセンター赤れんが前」の受付を5階で行います。

学会員以外の方も、学会大会に引き続きご参加される方は、基本的にはWEBの学会研究大会専用申込みフォームでのお申し込みを御願しております。

12. 後援

北海道、北海道教育委員会、札幌市教育委員会、北海道立北方民族博物館、独立行政法人国際協力機構、公益社団法人北海道国際交流・協力総合センター、公益社団法人北海道アイヌ協会、アラスカ姉妹都市(千歳市・帯広市・根室市・紋別市・佐呂間町・天塩町)、北海道国際理解教育研究協議会、北海道新聞社、読売新聞北海道支社、朝日新聞北海道支社、毎日新聞北海道支社、NHK 札幌拠点放送局

13. 公開シンポジウム会場近くの資料室および観光施設

①北海道白老町に「国立アイヌ民族博物館ウポポイ」(民族共生象徴空間)が2020年7月にオープンしました。(札幌-白老間:在来特急1時間、高速道路でも1時間)

②シンポジウム会場の300メートル南西の「北海道立生涯学習センターかでの2・7」の中に「北海道立アイヌ総合センター」もあり、アイヌ文化の資料展示室もあります。

③近隣の博物館等の施設

近隣に、北海道博物館(旧北海道庁赤れんが庁舎)、北海道大学植物園、北海道大学博物館、札幌時計台、サッポロビール博物館、JRタワー38階展望室、大通り公園+テレビ塔、札幌らーめん共和国、札幌オリンピックミュージアム、札幌羊ヶ丘展望台、札幌雪まつり資料館、等があります。

④千歳市の「サケのふるさと千歳水族館」、支笏湖、など、札幌市近郊に自然観光施設がたくさんあります。

14. 事務局連絡先

○大会実行委員会共同メール nihonkokusai32@gmail.com

○大会現地実行委員メール (〒085-8580 釧路市城山1-15-55 北海道教育大学釧路校)

・玉井 康之 tamai.yasuyuki@k.hokkyodai.ac.jp / tamaiyasuyuki@icloud.com
090-4875-3870 (主線) /011-778-0897 (大学)

・川前あゆみ kawamae.ayumi@k.hokkyodai.ac.jp
0154-44-3316 (主線・大学) /090-3462-6773 (携帯)

○大会現地実行委員メール (〒060-0811 札幌市北区北11条西7丁目北海道大学教育学院)

・Jeffrey Gayman jeffrey.gayman@imc.hokudai.ac.jp

・張 揚 zy-tyouyou@edu.hokudai.ac.jp

011-706-5323 (主線・大学)

15. 課題研究 I

「民族共生とアイデンティティ形成」

趣旨

近代以降に見られる国民国家 (Nation State) への志向は、教育基本法において「教育は、(略) 国民の育成を期して行われなければならない (1条)」と明文化されるように、国家の主要な任務の1つに公教育における「国民」の育成を数えるようになった。国民としてのアイデンティティ形成を公教育に求める一方で、多民族国家カナダは少数民族の民族としての教育の権利を憲法レベルで保障し、あるいはオーストラリアをはじめとするいくつかの国のように、多文化主義政策を公教育に反映させる例も少なからず見受けられる。こうした社会的背景もあって、国民国家における国民の育成という公教育の目的は、制度設計当初は想定し得なかった他国人あるいは他民族の存在とそのアイデンティティ形成への希求の間にあると述べても過言ではない。

国民としてのアイデンティティの形成、それ以外を公教育に容れぬ時代は過ぎ去り、民族としてのアイデンティティの形成をも公教育に容れることの是非が問われるパラダイム・シフトの起りが垣間見える。それは、単に制度設計だけでなく、多文化の共生をコミュニティへ容れるシチズンシップの醸成を公教育の内容とすることも当然含まれる。東京オリンピック・パラリンピック開催で世界中の人びとが来日する本年、国民として、あるいは民族としてのアイデンティティ形成をシンポジウムのテーマの1つとすることの意義は少なくない。

本課題研究では以上のような社会的背景を踏まえて、国民国家におけるマイノリティの置かれた状況について3つの事例報告を受ける。栗田梨津子会員からはアボリジナルのアイデンティティ形成の問題について、新関ヴァッド会員からはインドにおける少数民族が抱える教育問題について、森下一成会員からは日本における「沖縄」のアイデンティティについて、それぞれマイノリティによる民族としてのアイデンティティ形成に関する現状と課題を明らかにし、国際教育学の方法を考える上での議論の出発点とすることを目的とした。

〈報告者〉

①栗田梨津子 (神奈川大学)

「アボリジナルのアイデンティティ形成の問題」

②新関ヴァッド郁代 (産業能率大学)

「インド少数民族・モンパ族の教育と民族アイデンティティにおける課題」

③森下一成 (東京未来大学)

「琉球・沖縄のアイデンティティ 祈りをめぐる諸相」

〈司会〉森下一成 (東京未来大学)

16. 公 開 シ ン ポ ジ ウ ム

「共生社会における先住民族政策とはーアラスカと北海道の結節点ー」

趣旨

本シンポジウムでは、アラスカ出身の在北海道研究者と北海道・日本のアラスカ研究者が、相互の立場からアラスカの先住民族との共生社会に向けた先進的な取り組みをとらえることで、アラスカと北海道の結節点を明らかにしたい。またこれにより、民族共生社会に向けた先住民族政策と教育の新たな可能性を指し示していきたい。

アラスカ州は、住民の4分の1が先住民族であり、また極寒の北方圏に位置していたために、開拓者である白人が先住民族の生活様式を取り入れてきた。また歴史が浅く、旧ロシア領を買収したアラスカ州は、南部48州の開拓の反省も含めて先住民族を尊重する政策がとられてきた。このような歴史的経緯もあって、白人開拓者が先住民族を排除するだけでなく、先住民族と一定程度共生してきた文化がある。このためアラスカ州政府も先住民族との共生政策を推進し、また教育政策においても先住民族を理解する教育活動が進められた。

アラスカ州では先住民族と教育関係者が共同で「アラスカスタンダード」を作成して行動規範を推奨した。またアラスカ州での教員資格としてアラスカスタディを義務化するなど、独自の・先進的な施策を進め、民族共生の視点に基づいた先住民族政策の先進的モデルを見せている。

本シンポジウムでは、アラスカ州の歴史的・文化的背景を踏まえながら、このアラスカ州の共生社会政策と教育活動の特徴や課題を明らかにし、以て日本と北海道のこれからの先住民族研究の一つの方向性を指し示していきたい。

〈報告者〉

①伊藤太陽 (Center for Human Development, University of Alaska Anchorage)

「アラスカ先住民族教育の歴史から考える民族共生」

②Jeffrey Joseph Gayman (北海道大学)

「北海道に生かすアラスカの先住民族共生活動の理念と実践」

③玉井康之 (北海道教育大学)

「先住民族教育関係者の合意形成と共生社会化-アラスカの先進性に学ぶ」

〈指定発言〉

岩崎久和 (アラスカアンカレッジ市内小学校教諭・元アラスカ領事館職員)

「アラスカの小学校現場から見た共生社会」

〈司会〉

牛渡 淳 (仙台白百合女子大学) 境 智洋 (北海道教育大学)

17. 課題研究Ⅱ

「SDGsの展開と開発途上国の教育実践」

趣旨

本課題研究では、開発途上国と日本との国際協力関係を通してSDGs (Sustainable Development Goals) の具体的な実施のあり方を模索する。多様性と包摂性のある持続可能な社会の実現のため、2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」には17の目標と169のターゲットから成る「持続可能な開発目標 (SDGs)」が示されている。そこで、日本が開発途上国において紹介可能な教育実践例を取り上げ、実践現場の具体的な取り組みに即してSDGsを考えてみたい。開発途上国の中には日本の教育プログラムに強い関心を寄せているところも多いが、日本から見た開発途上国支援と、開発途上国から日本に期待する教育技術や教育内容が相互に融合することはSDGsの実施やパートナーシップの持続性にとって重要である。このような関係性がある初めて日本のSDGsの実践がより有効なものとなっていくのではないか。

このような課題認識から、本課題研究では開発途上国と日本の国際協力関係の実践的なあり方をとらえつつ、SDGsの今後の展開のあり方と条件を検討してみたい。

〈報告者〉

- ① 川前あゆみ (北海道教育大学)
「開発途上国と日本のへき地教育の国際教育貢献の役割」
- ② 小野豪大 (ジモノ工房プロジェクト・北海道教育大学非常勤講師)
「ラオスにおける教育改善の実践と国際教育貢献」
- ③ 佐藤秀樹 (公益社団法人青年海外協力協会・桐蔭横浜大学非常勤講師)
「SDGsと教育開発—“JICA地球ひろば”の実践から」

〈司会〉

白幡真紀 (仙台大学)

18. 「TKP 札幌ビジネスセンター赤れんが前」会場図と写真

〒060-0004 北海道札幌市中央区北4条西6丁目1 毎日札幌会館 5階 (事務所: 5階)
TEL011-600-2615



【アクセス】

札幌市営南北線 さっぽろ駅 10番出口 徒歩2分

JR 函館本線 札幌駅 南口 徒歩5分

札幌市営地下鉄 南北線 東豊線 東西線「大通駅」 徒歩11分

5階会場フロアー全体図



10/9 (土) 公開シンポジウム会場、総会会場 写真

会場: はまなす



10/9 (土) Zoom 受信室=札幌滞在利用者用「オンライン室」兼事務局控室: ライラック

